

関東学院大学・授業実践研究会

少人数インタラクティブ授業の実践

ー アクティブ・ラーニングへの取り組み
& 本学へのインプリケーション ー

2018年2月8日

関東学院大学・経営学部

荒川 一彦

授業実践のご紹介

本日のトピックス

1) 自己紹介(経歴・研究経歴)

- ・経歴概要
- ・教育方針・実践

2) 授業実践(アクティブラーニング)のご紹介

- ・キャリア教育科目の開発(「アドバンスト・インターンシップ」)
- ・FD活動の組織的展開(「少人数インタラクティブ授業」の実践)※

※近畿大学経営学部FD委員会2011～2014

自己紹介

荒川 一彦（あらかわ かずひこ）

◆慶應義塾大学・大学院・博士課程修了（政治学）

◆(株)野村総合研究所 入社

・政策研究部・経済調査部配属

・新社会システム研究センター、情報技術調査室、経営企画部

・システムコンサルティング事業本部・上級コンサルタントで退職

◆電子商取引推進協議会（Ecom）出向

・主席研究員（ビジネスモデルWG主査）

◆近畿大学・経営学部・教授

・経営組織論、経営情報論、キャリアマネジメント論 FD委員長（アクティブL導入）

◆関東学院大学・経営学部・教授

・経営情報システム論、経営組織論、組織情報論、キャリアマネジメント論

※慶応ビジネススクール博士課程・単位取得（経営組織論、経営情報論）

※グロービス・マネジメント・スクール講師

※イリノイ大学労使関係研究所、ロンドン大学SOAS訪問教授

※厚生労働省認定キャリア・コンサルタント

研究活動

PPBA 32th Conference

June, 2015 , Hanoi, Vi

EGOS 31st Colloquium

July 2015, Athens, Greece

「ITによる効果的知識創造活動の研究」
「外国人労働者のキャリアと社会包摂」
「OCWを活用した効果的授業の研究」



▼2014年9月～2015年3月
イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校
労働・雇用問題研究大学院

5

5

ILLINOIS
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

担当科目

<近畿大学:週11コマ>

組織設計論 I・II

経営組織論(ゼミ1、3、4)

キャリア・デザイン

キャリア形成基礎

アドバンスト・インターンシップ

経営情報論 I・II

大学院(組織開発論)

<関東学院大学:週4コマ>

経営情報システム論 I・II

KGUキャリアデザイン

基礎ゼミ・ビジネスプラン

経営組織論・情報論(ゼミ)

研究し、本を書く

主専攻:経営組織論(高木晴夫)、副専攻:経営情報論(國領二郎)

⇒ ケースメソッド教授法<<討論授業>>修了・実施

大学教育の質的転換

成熟社会において求められる能力

- ◆ 答えのない問題に解を見出していくための批判的、合理的な思考力等の認知的能力
- ◆ チームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担う、倫理的、社会的能力
- ◆ 総合的かつ持続的な学修経験に基づく創造力と構想力
- ◆ 想定外の困難に際して的確な判断ができるための基盤となる教養、知識、経験
など、予測困難な時代において高等教育段階で培うことが求められる「**学士力**」。

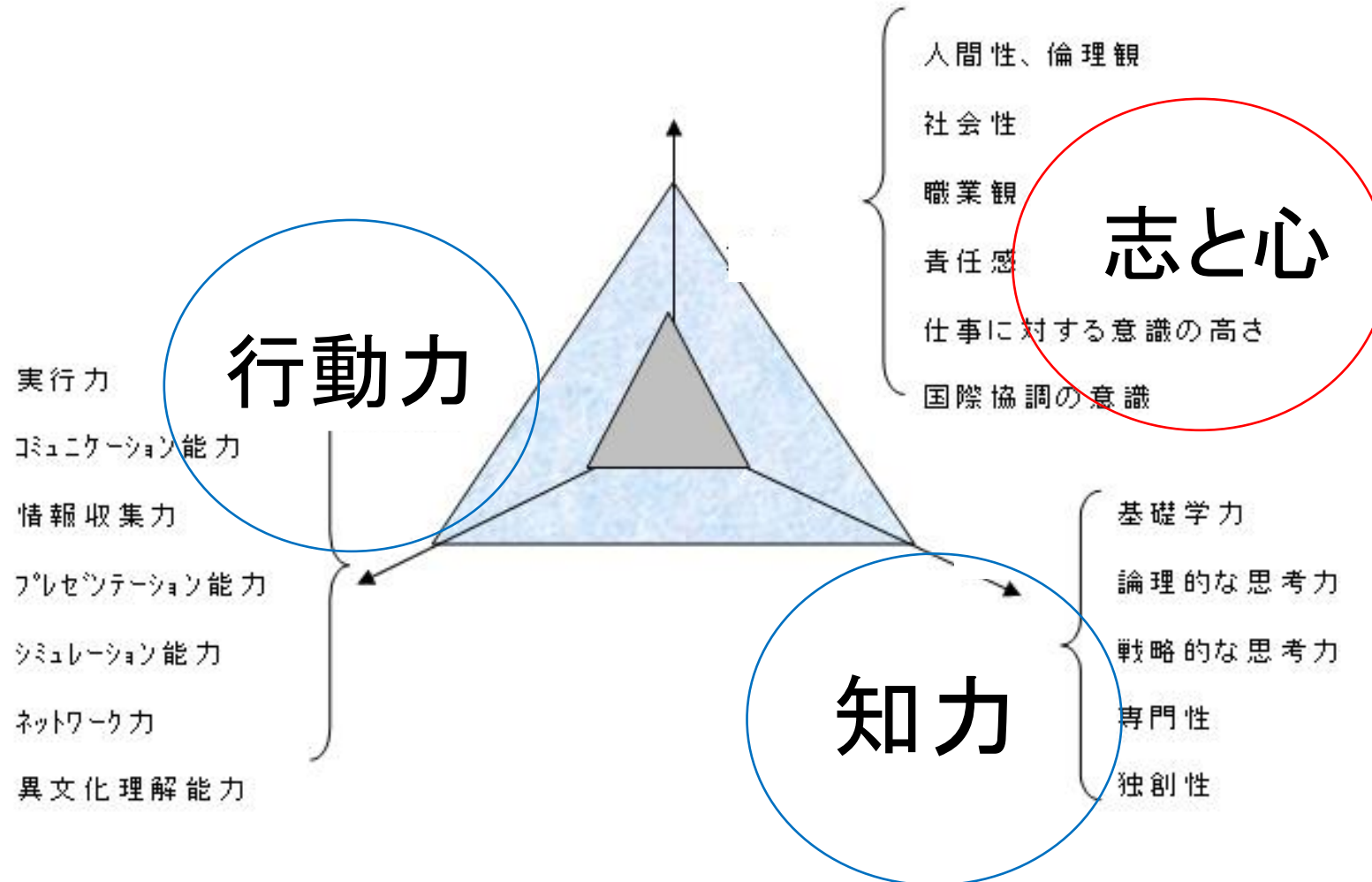
求められる学士課程教育の質的転換

- ◆ 上記のような「学士力」を育むためには、ディスカッションやディベートといった双方向の授業やインターンシップ等の教室外学修プログラムによる主体的な学修を促す学士課程教育の質的転換が必要。
- ◆ 学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続け、主体的に考える力を修得。そのためには質を伴った学修時間が必要。

出所)「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」 中央教育審議会 2012年8月28日

求められる人材像

産業界が求める3つの力



出所) 「21世紀に生き抜く次世代育成のための提言」 日本経団連 2004年4月

経営教育：ケース討論による体験学習

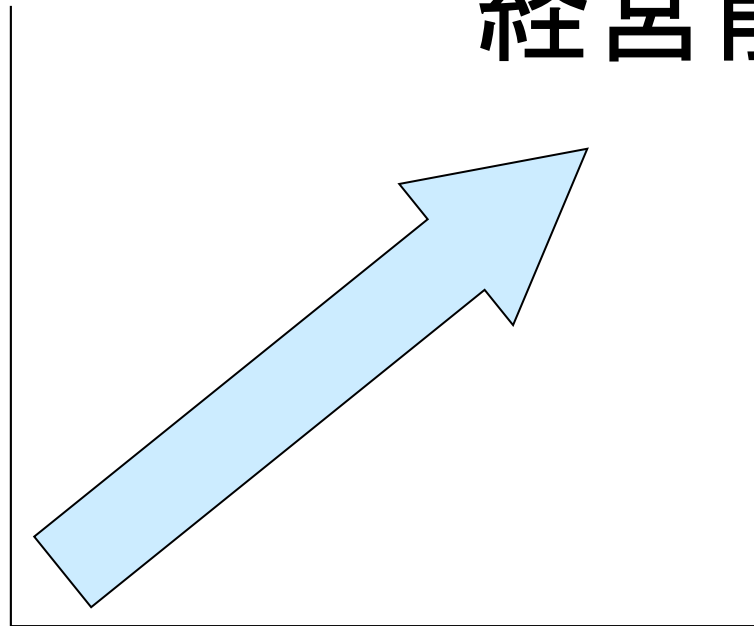
(ビジネス・スクールMBA授業：教授法の必要)

洞察力
分析力
統合力

(専門領域
を横断的に
個別専門知識を
統合する“力”)

意思決定と行動
の源泉

経営能力



専門知識

(暗記による知識蓄積)
基礎的しかし陳腐化する

荒川の教育目標

◆「経営能力」をつける

- 経営の視点からものを見、考え、意思決定する。
- ・ビジネス・フレームワーク（基礎的な見る目、分析視点）
- ・コンセプチュアル・スキル
（本質を分析・構造化し、解決策を導出する考える力）
- ・マインド&ヒューマンスキル
（人を引っ張る意思とコミュニケーションスキル）
- →「経営能力」とは、個別専門領域を横断し、俯瞰し、それを統合する総合力。

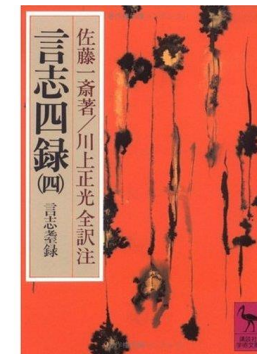
◆実践共同体（プラクティス・コミュニティ）のメンバーになる

- 知識創造の共同作業に参加する。
- ・主体的に取り組む。（意思）
- ・積極的に発言する。（リーダーシップ）
- ・協力し、互いに学ぶ。（コミュニケーション&学習スキル）
- →「経営能力」は、能力であるとともにコンピテンシー（行動特性）。体得する。

大学で学ぶ：真理の探究、自由の意味を知る

「自分らしく歩む」力をつける

「凡そ学を為すの初めは、必ず大人(たいじん)たらんと欲する志を立て、しかる後に、書は読むべきなり。」（「言志叢録」佐藤一斎）



経営情報学／経営情報論

第一義的には、経営情報に関する学である。経営における情報の役割と価値、その相互作用によって生じる社会現象(組織)を取り扱う社会科学である」 (松島佳樹)

「①組織の業務・管理・経営活動を“情報の相互作用”
として解明する、

「②組織が変化する環境に適応しつつ、変化し発展することに
貢献するメカニズムの構築と管理のための理論」

(遠山暁他)



MT(経営技術)×IT(情報技術)の視点

2016年度 専門科目（前期2単位）

アドバンスト・インターンシップ

- キャリア & ビジネス研修 -



近畿大学・経営学部・キャリアマネジメント学科

専門科目：アドバンスト・インターンシップ

「大学生向け啓発プログラム」

「インタラクティブ授業」(半期2単位)

+

「キャリア&ビジネス体感研修」

(3日間合宿)

(企業訪問・フィールドワーク)

ビジネスの現場に立つ。体感する。理解を深める

「大学生向け啓発プログラム」事例のご紹介

アドバンスト・インターンシップ

- 1) 自分を知る(キャリア意識)
- 2) 人を知る(集団・環境認識)
- 3) 訪問先を知る(企業研究)

仕事の実際、働くということの見聞

- ・キャリア・職業意識の啓発
- ・自律的キャリア形成の始動

アドバンスト・インターンシップ

半期の準備演習にて、以下の内容を段階的に実施。

- 1) 人材・キャリア研究：
⇒求められる人材とキャリア形成に関する知識の習得
- 2) 自己分析：
⇒個人ワークと相互インタビューによる確認
- 3) キャリア事例研究：
⇒ケースメソッドによるディスカッション
- 4) 企業研究：
⇒業界構造と個別企業に関する調査・報告プレゼンテーション
- 5) 総合演習：
⇒フィールドワーク手法と視点、現地研修に関するインフォーム

アドバンスト・インターンシップ

<講座全体のカリキュラム構成>

●ガイダンスと選考

第1回 ガイダンス：「企業と職業・就業の現在」講義と「選考」

●事前研修

第2回 人材・キャリア研究：キャリアの基礎概念・働くとは？

第3回 人材・キャリア研究：求められる人材とその実現・自己分析

第4回 人材・キャリア研究：自他分析、インタビュー・スキル等

第5回 組織とキャリア研究：人のキャリアと働く環境、ケース方法

第6回 組織と人の理解：ディスカッション・スキル、ケース討議

第7回 組織と人の理解：ディスカッション・スキル、ケース討議

第8回 企業研究：企業の事業・組織・人（企業研究の研究手法）

第9回 企業研究：企業の事業・組織・人（企業研究発表）

第10回 企業研究：企業の事業・組織・人（企業研究発表、訪問準備）

第11回 総合研究：事前研修のまとめと訪問研修準備、研修参加者選抜

●夏季訪問研修：ガイダンス

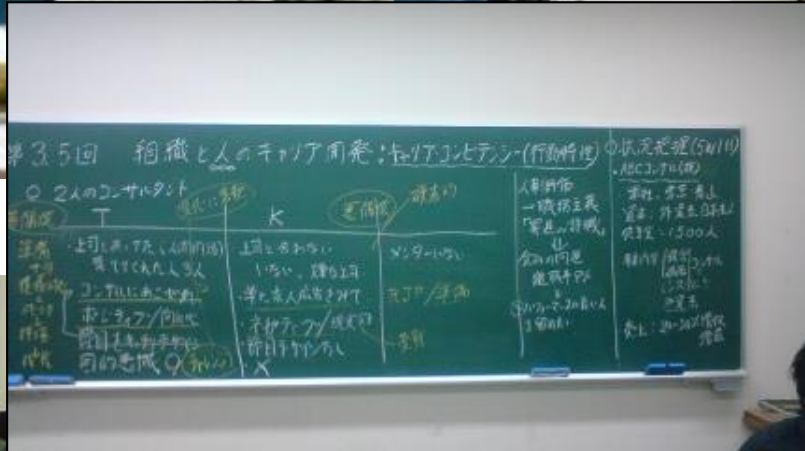
第12回 訪問ガイダンス（選抜者）

●夏季訪問研修：以下は集中研修期間に行われる。

第13-15回相当（1日） 特定企業研究（フィールドワーク）

大企業の本支社又は研究所・展示場等訪問

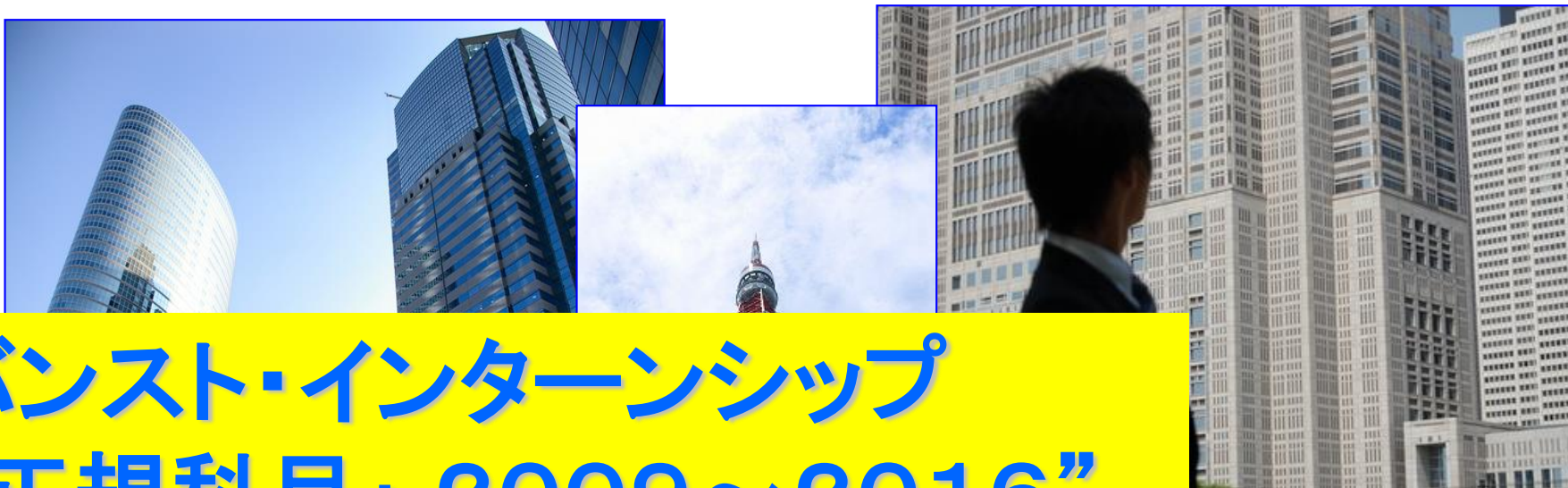
■ 授業風景



経営学部 キャリア・マネジメント学科 主催

東京キャリア&ビジネス体感 “研修2007～2016”

～21世紀ビジネスの実践感覚と自律的キャリア開発力の獲得～



“アドバンスト・インターンシップ
2単位正規科目：2009～2016”

1 8/2(火)

10:00 ●現地集合（飯田橋会議室：8:00より使用可：ホテルで荷物を預けて集合）

10:00-11:30 オリエンテーション（TKP飯田橋会議室）

12:30-14:30 清水建設研究所（越中島）

15:30-17:30 国際労働機関ILO（渋谷）

2 8/3(水)

10:00-12:00 野村ホールディングス／証券（大手町）

13:30-15:00 東京証券取引所（茅場町）

16:00-18:00 国会議事堂・衆議院（国会議事堂前）

19:00-20:00 懇親会（近畿大学・国際人文科学研究所）（飯田橋）

3 8/4(木)

10:00-12:00 日立製作所（丸の内）

13:30-15:30 (株)野村総合研究所（丸の内）

●現地解散

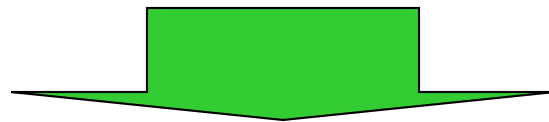
■ 夏季研修風景（企業訪問・フィールドワーク）



自己・キャリア意識の変化に関する考察

啓発研修・体験の効果

- I. キャリア関心・意識の変化（関心性）
- II. 自己意識の明確さ（計画性）
- III. キャリア自律・主体性（計画性）
- III. キャリア自律・主体性（自律性）



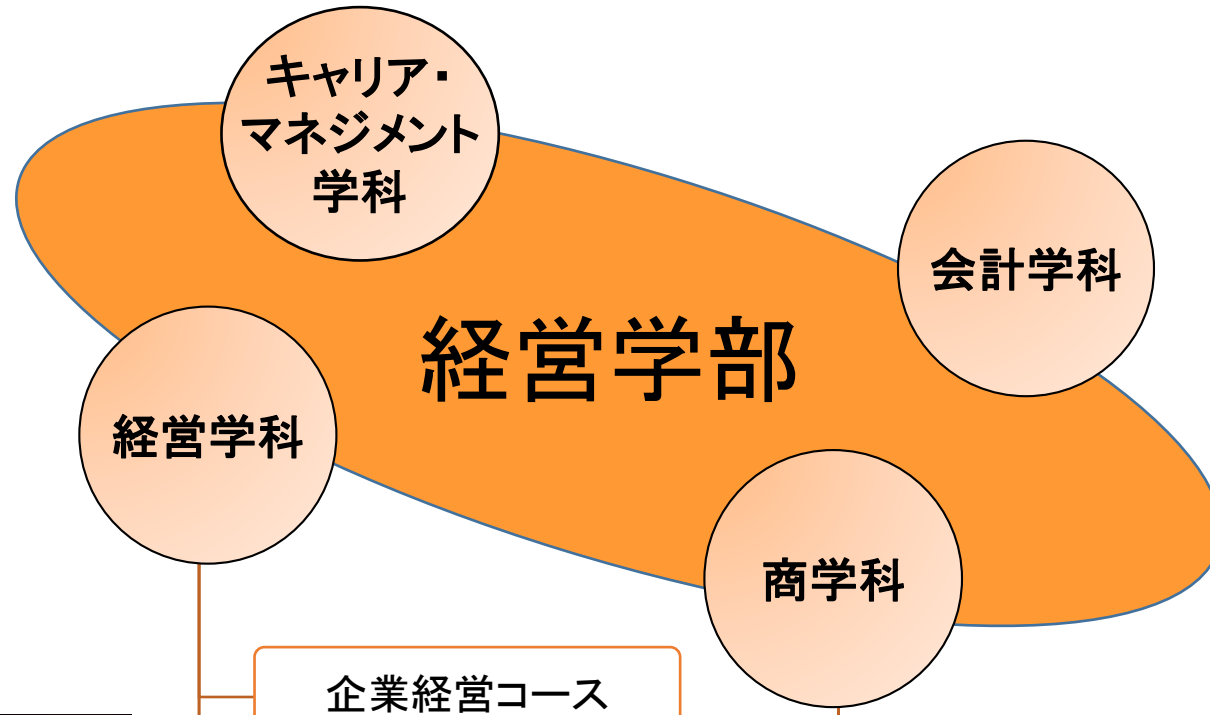
- キャリア & 自己意識の傾向的高まり
- キャリアへの取り組み姿勢の積極化

キャリア意識の若干の現実的修正も・・・

FD活動の展開と 少人数インタラクティブ授業の実践

— 近畿大学FD委員会の
アクティブ・ラーニングへの取り組み2011～14—

近畿大学経営学部: 4学科6コース



経営学部生
5,496名 (2015年度)

専任教員
92名 (2015年度)

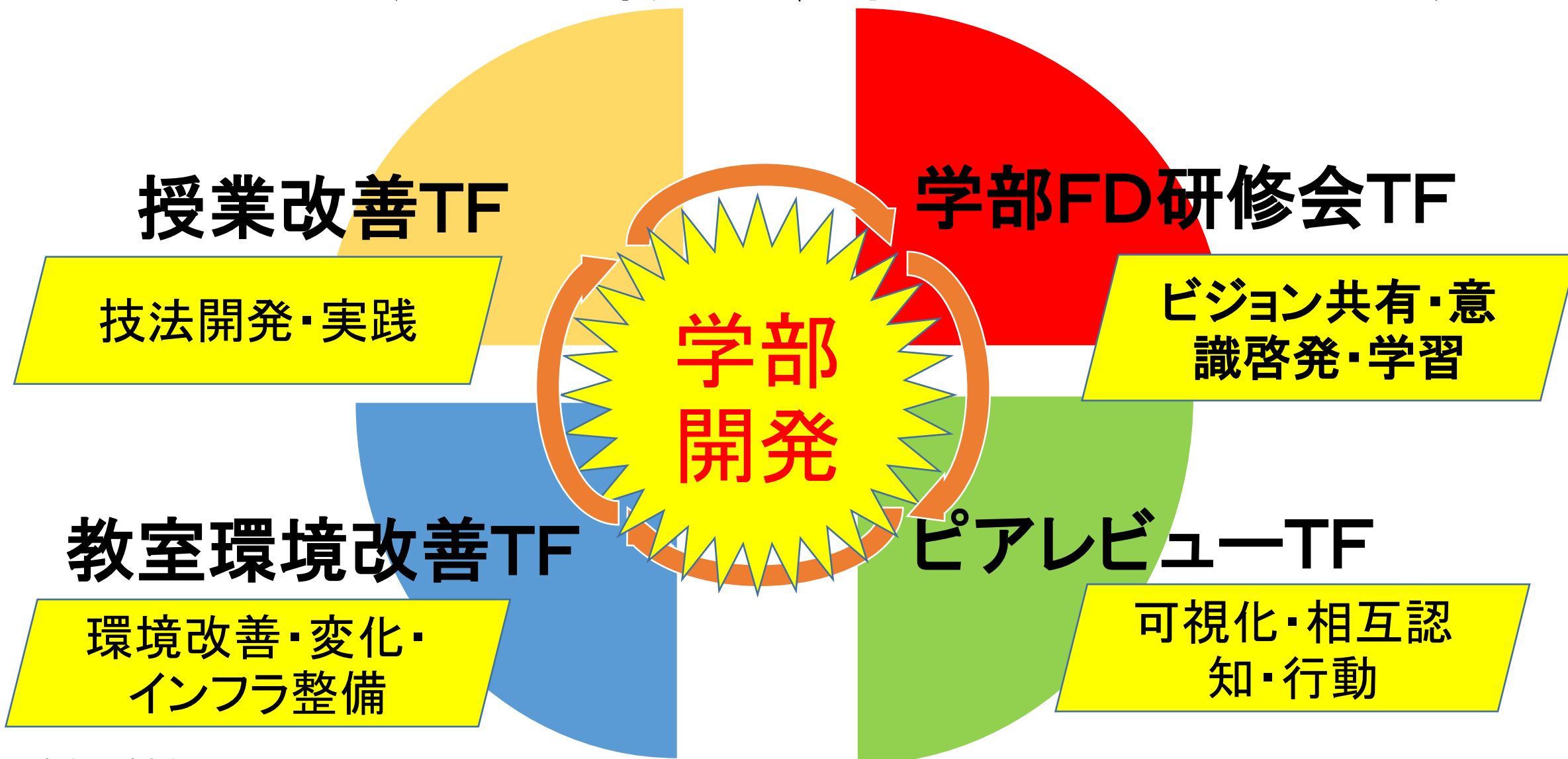
少人数インタラクティブ授業浸透へ

経営学科
商学科
会計学科
キャリア・マネジメント

計 1,100名

* スポーツマネジメントコースはスポーツ推薦のみの募集

FD活動の組織的展開：花びら型活動



FD研修会を通じた教授法の改善：アクティブ学習他

全学・大学院FD研修会以外に、経営学部では、学部独自のFD研修会を毎年度2～3回実施している。

【平成2011年度】

第2回 「マネジメントスキルと教育：KBSケース授業を通して」

高木 晴夫 先生(慶応大学・ビジネススクール・教授)

平成23年11月12日(土)13:30-15:30

第3回 「学生のやる気を引き出す文理融合グループ知識創造教育」

國藤 進 先生(北陸先端科学技術大学院大学・副学長)

平成24年3月14日(水)13:00-15:00

第4回 教養・基礎教育部門主催FD集会、経営学部FD委員会協賛

第一部「大学における語学教育をめぐって」 経営学部・教養基礎教育部門教員(白川先生他)

第二部「クロスオーバー的視点からの多言語教育」 小野隆啓先生(京都外国語大学・教授)

平成24年3月16日(金)14:00-17:30

【平成2012年度】

第1回 「大学学部の教育と学びの質を考える」

池田 輝政 先生(名城大学・人間学部・教授)

平成24年9月28日(金)14:50-16:20

第2回 「解決策のない時代の未来創造：博報堂のイノベーション・ラボの未来洞察と人材育成(仮)」

栗田 恵吾 氏(株)博報堂・イノベーションラボ・代表)

平成25年2月9日(土)14:50-16:20

無断転載はご遠慮ください：©Kazuhiko Arakawa 2018

【平成2013年度】

第1回 教養・基礎教育部門主催FD集会、経営学部FD委員会協賛

「授業外活動としての外国語教育」 教養基礎教育部門教員(坂野・吉田先生他)

平成25年6月29日(土)13:30-17:00

第2回 「ファシリテーション技法に基づいた授業デザインとF工房での取り組み」

鬼塚 哲郎 先生(京都産業大学・F工房事業統括/文化学部・教授)

中西 勝彦 先生(同 大学 共通教育推進機構・F工房担当コーディネータ)

平成25年7月24日(水)14:50-16:20

第3回 「大学教員の協働を促すアクティブラーニングとは・・・

～全国大学のアクティブラーニング調査結果から～

谷口 哲也 先生(河合塾・教育研究部・部長)

平成26年

【平成2014年度】

第1回 「M

著本

平成

第2回 「経営学科ビジネスプランコンテストの取り組みと発表事例」

経営学科教員(芦塚先生他)・コンテスト優勝グループの学生

ビジョン共有
意識啓発・学習

2012～15年度 ピア・レビューの実施

年度1回実施（後期）

全専任教員が聴講

各自報告書（全員提出）

有志教員の授業公開

全体報告書（会議提出）

1) 対象：教養・基礎教育科目 専門科目 全35コマ

（経営学科7名、商学科各4名、会計学科4名、キャリアマネジメント学科4名、
外国語部門4名、健康・スポーツ部門3名）

※13年度は、少人数インタラクティブ授業、健康

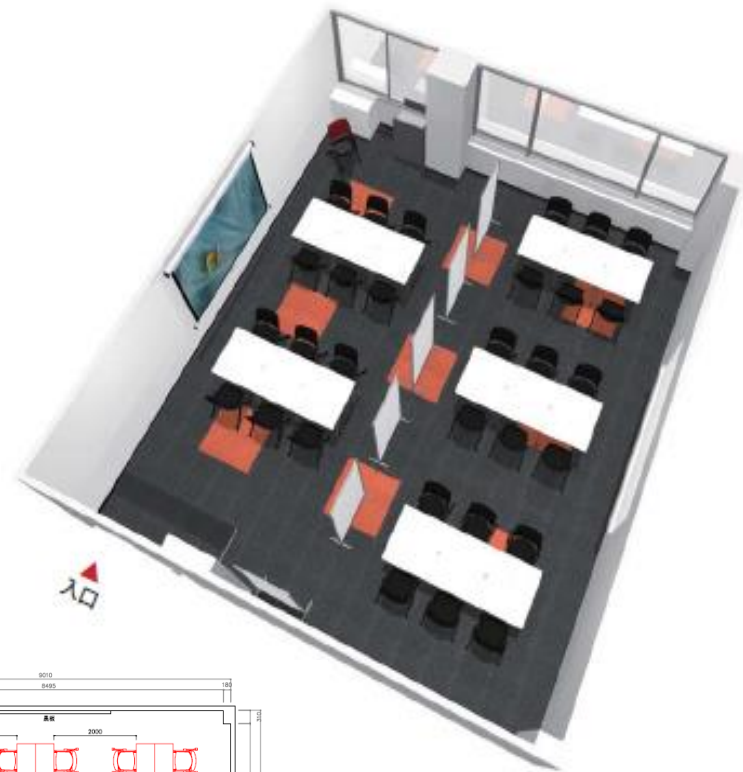
2) 方法：添付「時間割」を参照し、期間内に1クラス以上

3) 授業公開期間：11月25日（月）～12月21日（土）：実施期間を4週間

4) 報告書の提出：TFでとりまとめ、教授会・全体会議で概要・改善点報告

**可視化・相互認知
行動**

アイデア・クリエーション・ルームの設置 2013



机椅子が可動式、全壁面白板のマルチメディア教室

無断転載はご遠慮ください: ©Kazuhiko Arakawa 2018

FD少人数インタラクティブ授業の試み 2013

- ・ペーパータワー建設で学ぶビジネスイノベーション(会計学科)
- ・ケースメソッド授業:組織文化の変革 (キャリア・マネジメント学科)
- ・オープン・コース・ウェア(OCW)を活用した少人数インタラクティブ授業の試行(外部講師)
- ・現金とモノを動かして会計上の利益の意味を確認する (会計学科)
- ・企業発展実態分析 (経営学科)
- ・ゼミ対抗研究発表大会に向けたゼミ内選抜プレゼンテーション(キャリア・マネジメント学科)
- ・タブレットPCを用いた双方向型講義デモ (経営学科)
- ・リーディングを中心とした英語コミュニケーション能力の総合的(専門)
- ・ファイナンスゲーム (キャリア・マネジメント学科)

**技法開発・
実践**

※詳細は「2013年度 FD少人数インタラクティブ授業報告書」経営学部FD委員会に記載

経営学科

■ タブレットPCを用いた双方向型講義



タブレットPCを用いた双方向講義手法の実証実験。就職対策講座をテーマに講義デモ。タブレットPC上で表示される電子教材を用いた座学と、タブレットで撮影した面接室への入室動作をプロジェクターで上映し、自分の第一印象を確認・修正する実習。

商学科

■ 社会課題解決のグループワーク実習



社会課題(今回は、献血に行く近畿大学学生を増やす。統一地方選挙に投票に行く近畿大学学生を増やす)を解決する具体的な課題解決提案実習を実施。異なる組織の人々で構成されるチームにより、時間制限内に解決するグループワーク実習。

会計学科

■ペーパータワー建設で学ぶビジネスイノベーション



1チーム6名で会社を作り、半紙(習字用紙)を材料としてタワー建設に挑戦する。最も高いタワーを作ったチームが優勝とする。この作業を通じて、会社の中でのチームワークやコミュニケーションの大切さ、製品開発のイノベーション、利益計算を学ぶ。

無断転載はご遠慮ください: ©Kazuhiko Arakawa 2018

キャリアマネジメント学科

■ケースメソッド討論授業：組織文化の変革



ケースメソッド教授法を使った討論授業。組織改革の実際を記述したケースを読み、登場人物になって状況を把握し、経営者としての経営判断を磨く。理論をケースを通して実践に応用するための、理論学習の集大成としての体験授業。

語学教育部門

■ 英語コミュニケーション能力の総合的育成



リーディングを中心に、音声による訓練も多く取り入れ、英語を聞く、話す、読む、書くの4技能をバランスよく総合的に育成する。1) Repeated Timed Readingを取り入れた多読活動、2) サマリーを活用したディクテーションとシャドーイング訓練、3) 英語によるグループ・ディスカッションとプレゼンテーション。

無断転載はご遠慮ください: ©Kazuhiko Arakawa 2018

OCW活用

■ オープン・コース・ウェア(OCW)を活用した 少人数インタラクティブ授業



オープン・コース・ウェア(OCW)教材を自習・予習し、演習の場でインタラクティブに応用力を鍛える模擬「反転授業」。消費者タイプ分析を利用してマーケティング理論を体験、理解。

OCWを活用した「反転授業」演習の流れ

- (1) OCWの事前視聴・学習
 - ・OCWに関する解説ネット動画(1): 一般紹介
 - ・OCWに関する解説ネット動画(2): 特定講演
 - ・VALSホームページ・自己診断



- (2) 教室での授業
 - ・教師によるオリエンテーション・OCW紹介
 - ・VALS診断の実施と分析(3班・代表1名)
 - ・グループ討議
 - ・教師によるまとめ/コメント及び学習サイトの紹介



- (3) OCWによる復習・自己学習
 - ・復習
 - ・さらなる自己学習・知識開拓(ネット視聴等)

FD活動の組織的展開：花びら型活動



FD活動のその後 (2015年末時点)

- ・授業評価アンケートは継続
- ・インタラクティブの授業は、担当教員に任せています

標準化
分業
組織化
非人格化

合理的
経営へ

精神革命

学部内。
提言・要望。
まで

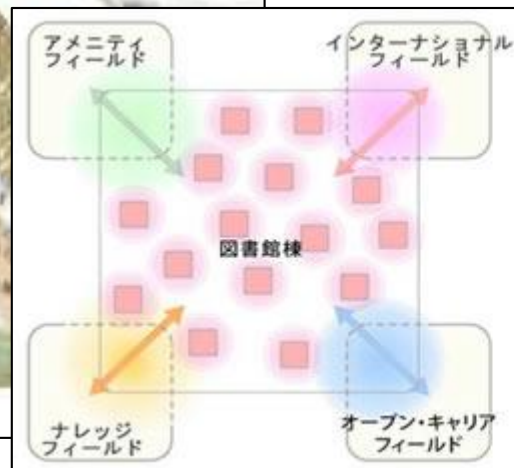


継続性
計画性
組織対応
具体的成果!

- ・産官学連携部会を立ち上げ、産官学連携を促進するために、産官学連携のための研究者リスト・白書を作成

超近大プロジェクト(全学)

近畿大学(大阪府東大阪市)は平成32年(2020年)の完成を目指し、東大阪キャンパスの大規模整備中



21世紀のキャリア・イメージ

インテリジェント・キャリア(賢いキャリア) バウンダリーレス・キャリア(境界なきキャリア)

＝職務、組織、仕事と家庭、産業の壁を越えて動く、
ひとつの境界内に閉じ込められない、
変幻自在なキャリア

＝変化に柔軟で、新しい要素や偶然を、
積極的・オープンに取り込んで成長する

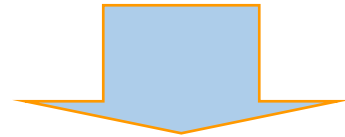
＝但し、自分の基本的方向性に関するビジョンを持ち、
主体的に選択してゆく。

学習しよう。学問しよう。体感しよう。

— 情報から知識へ、そして判断力(世界観)へ —

居心地の悪さを感じる

いままで暮らした自分と自分の文化・考
え・暮らし方を、一歩はなれて見直せる。



自他の理解と改善と進歩と成長 = 「学ぶ」ということ

自分の頭で考えて→解決する

||

「大学で学ぶ」

「人はみな良い仕事をしたいと思っており、
環境さえ整えば良い仕事をするものである」

(HP-Way)

“制度と運用は別”

(良い制度も経営能力がなければ良く機能しない)

“良き伝統はすたれる”

(お目付けと教育研修がいる。導入する)

「眼高手低」

(教育における高い理想と質、着実な実行)

教育は、荒れない・荒らさない

リベラルアーツ／教養教育の重要性

“アマースト大学Amherst College”をめざして？！

"Terras Irradiant (Let them give light to the world)"
(社会に貢献する人物の育成)

- ・アメリカのリベラルアーツ大学として10度1位を獲得
- ・全米で最も入学困難な大学(合格率13%)
- ・徹底した少人数教育・授業の89%が10人以下
- ・専任教授数は200人強、学生総数約1800人
- ・卒業生に、新島襄、内村鑑三、ウィリアム・S・クラーク
本間長世、他
- ・学生一人当たりの寄付金総額がハーバード大学を
上回り世界一



アマースト大学 Amherst College



ありがとうございました

荒川 一彦

karakawa@kanto-gakuin.ac.jp